

4モーラ短縮形に関する形態論的研究*

－ドラマのタイトルを中心に－

秋葉多佳子**
takakoakiha@gmail.com

金廷珉***
kjm0630@gmail.com

<目次>

- | | |
|---------|------------|
| 1. はじめに | 4. 調査結果と分析 |
| 2. 先行研究 | 5. 考察 |
| 3. 研究概要 | 6. おわりに |

主題語: 短縮形(Abbreviation)、ドラマタイトル(Drama title)、形態論(Morphology)、頻度(Frequency)、4モーラ(Four-mora)

1. はじめに

現在、日常生活で使用される日本語の語彙の中には「テレビ」「アニメ」「じゃがいも」といったように非常に多くの短縮語が存在する。これらの短縮語は単純語からの短縮語(「テレビジョン」→「テレビ」)と複合語句からの短縮語(「ジャガタラ芋」→「じゃがいも」)の大きく二つのタイプに分けることができる(窪菌2008)。近年では、字数制限やタグ付け機能を持つSNSなどの普及により、「フロリダ(お風呂に入るから離脱する)」、「にげはじ(逃げるは恥だが役に立つ)」といったような句や文の短縮語の使用も目立つ。柴咲ほか(2007)や玉岡・トクソズ(2010)などではこのような文や句の短縮例が挙げられており、伊東(2011)でも文や句の短縮形は構成要素の前部を残し結合するパターンが多いことが指摘されているが、調査

* 本研究は韓国日本近代学会第37回国際学術大会(2018年5月12日、於韓南大学)において口頭発表を行ったものに修正・加筆を施したものである。また、本研究は2018年度韓国外国語大学校研究支援及び2018年度麗澤大学特別研究助成金を受けたものである(This work was supported by Hankuk University of Foreign Studies Research Fund of 2018 and Reitaku University Research Fund of 2018.)

** 韓国外国語大学校 副教授

*** 麗澤大学 准教授

を通した量的な研究は金・秋葉(2018)を除き、管見の限り見当たらない。金・秋葉(2018)では日韓両言語のドラマタイトルの短縮形を収集し量的分析を行ったうえでその短縮パターンを比較しているが、パターン別の出現頻度に焦点を当てており、タイトルの語種や4モーラ収束規則については詳細に考察をしていない。

そこで、本研究ではドラマのタイトルを構成する語種と短縮形の形態論的特徴、特に短縮形の4モーラの収束規則についての考察を行う。本稿の構成は以下の通りである。2節では短縮形を取り上げた先行研究を紹介する。3節では本研究の土台となる金・秋葉(2018)の研究概要について述べる。4節では調査結果を分析し、5節では分析結果に基づいて考察を行う。最後に6節では本研究で得られた結果をまとめ、今後の課題を提示する。

2. 先行研究

これまで短縮語に関する先行研究では、短縮語の形成メカニズムやその形成及び使用においてみられる世代差について詳細な考察が行われてきた(日比谷 1998、柴崎ほか 2007、窪菌 2008, 2010、文 2017など)。本節では本研究と関連性の深い窪菌(2008)、日比谷(1998)、金・秋葉(2018)の研究を概観する。

まず、様々なタイプの短縮語について包括的に述べている窪菌(2008)では、単純語と複合語句の典型的な短縮パターンについて、単純語の短縮過程は(1)(2)のように語頭を2~4モーラだけ残す形で起こり、複合語句はその短縮パターンから(3)の「ポケモン」タイプと(4)の「ケータイ」タイプに二分されるとしている。各要素から語頭を結合して作られる「ポケモン」タイプは語頭2モーラずつを結合し4モーラを作るのが基本的で、複合語句の1要素のみを残す「ケータイ」タイプでは前半要素だけを残す場合が圧倒的に多いとしている。単純語と複合語の短縮以外にも、「日体大(日本体育大学)」のような頭文字語などが挙げられている。

- | | |
|---------------------------------------|--------------------|
| (1) <u>スト</u> ライキリ → スト | (窪菌2008: 137、一部修正) |
| (2) <u>イラ</u> ストレーション → イラスト | (同上、一部修正) |
| (3) <u>ポケ</u> ット <u>モン</u> スター → ポケモン | (同: 141、一部修正) |

1) 下線は切り取ったモーラであるが、変音現象など特殊な現象を伴わないものを実線で、伴うものを点線で示す。

- (4) 携帯電話 → ケータイ (同: 146、一部修正)

日比谷(1998)では複合語短縮について形態論的観点からそのメカニズムを考察している。複合語の短縮形はその大半が上記の(3)のように前部要素のはじめの2モーラと後部要素のはじめの2モーラを結合した4モーラの形であるとしている。また、この基本的な4モーラ短縮形のほかに、以下の(5)から(12)のような変音現象(拗音直化、長音短化、短音長音化、促音化、非促音化、連濁、半濁音化、音訓転換)を伴い4モーラに短縮される場合もあることを明らかにしている。

- (5) 拗音直化: アメリカン + カジュアル → アメカジ (日比谷1998: 60、一部修正)
 (6) 長音短化: ビーフ + ステーキ → ビフテキ (同: 61、一部修正)
 (7) 単音長音化: さわやか + ぶどう → さわぶー (同上)
 (8) 促音化: 国語 + 研究所 → こっけん (同上)
 (9) 非促音化: 北海道 + 大学 → ほくだい (同: 62、一部修正)
 (10) 連濁: 恋の話 → こいばな (同上)
 (11) 半濁音化: 健康 + 保険 → けんぼ (同上)
 (12) 音訓変換: 落語 + 研究会 → おちけん (同上)

金・秋葉(2018)では韓国と日本のキー局各5社の2010年1月から2017年10月までのドラマタイトルの短縮形を対象として、その短縮パターンの種類と諸特徴を明らかにすることを目的として量的分析を通じた日韓対照研究を行っている。分析の結果、日本語では各要素の語頭2モーラずつを取るパターン及び4モーラの短縮形が最も生起頻度が高いことが分かった。しかし、語頭の切りとり方の詳細と4モーラに収める規則については明らかにしていない。そこで、本研究では、ドラマタイトルの短縮形において最も典型的な4モーラ短縮形について、その切り取り方と収束規則を明らかにすることを目的とする。

3. 研究概要

本研究は金・秋葉(2018)の継続的位置づけの研究であるため、本節では金・秋葉(2018)の研究概要について簡略に述べる。データは、キー局(TBS、フジテレビ、テレビ東京、日本テ

レビ、朝日テレビ)の2010年1月から2017年10月までのドラマタイトルについて、ドラマのホームページ、インターネット記事、個人のブログなど、様々な媒体を幅広く検索し短縮形を収集した。ドラマのタイトルによっては、インターネット記事で使われている短縮形、視聴者が使用している短縮形、ドラマの出演者が使用している短縮形が異なる場合があり、一つのタイトルに複数の短縮形が観察されることもあった。このような場合、観察されたすべての短縮形を分析データに含めている²⁾。その後、収集した短縮形について、以下の5つの短縮パターン別の生起頻度を調べ、短縮形のモーラ数について分析した。

● 短縮パターン(金・秋葉2018: 6)

- ① 各要素の語頭2モーラずつ結合
- ② 各要素の前半2モーラと前半1モーラを結合
- ③ タイトルの前半(の一部)のみを残し、残りは消失
- ④ タイトルの後半(の一部)のみを残し、残りは消失
- ⑤ その他

以下の<表1><表2>に金・秋葉(2018)の調査結果を示す。<表1>の短縮パターン別の出現頻度を見ると、放送局によって順序に多少の違いはあるが、最も出現頻度が高いパターンは①の各要素の前半2モーラ・後半2モーラを結合するもので、続いて③タイトルの前半一部をそのまま残すもの、⑤その他の順に頻度が高かった。短縮形のモーラ数をまとめた<表2>の結果を見ると、2から15モーラと幅広いモーラ数が観察されるが、4モーラ短縮形が全体の約60%を占めており圧倒的に多いことが分かる。

<表1> 日本語の短縮パターン別出現頻度(金・秋葉2018: 8)

パターン	TBS	フジ	東京	日本	朝日	合計(%)
①	57	54	17	41	15	184 (43.1)
②	0	3	1	3	1	8 (1.9)
③	43	32	30	22	24	151 (35.4)
④	1	1	3	12	6	23 (5.4)
⑤	11	23	6	16	5	61 (14.3)
合計	112	113	57	94	51	427 (100.0)

2) 金・秋葉(2018)では多くの短縮形を集めてそのパターンを量的に分析することを目的としているため、短縮形一つ一つの頻度は考慮していない。

<表2> 日本語の短縮形のモーラ数(金・秋葉2018: 8)

モーラ数	TBS	フジ	東京	日本	朝日	合計(%)
2	2	1	0	0	1	4 (0.9)
3	5	12	3	9	4	33 (7.7)
4	77	69	26	56	23	251 (58.8)
5	6	3	2	5	3	19 (4.4)
6	6	6	2	6	3	23 (5.4)
7	7	7	12	9	11	46 (10.8)
8	0	6	2	2	3	13 (3.0)
9	0	3	4	1	2	10 (2.3)
10	3	0	2	3	0	8 (1.9)
11	1	1	3	2	0	7 (1.6)
12	0	0	1	0	0	1 (0.2)
13	1	0	0	0	0	1 (0.2)
15	1	0	0	0	0	1 (0.2)
その他	3	5	0	1	1	10 (2.3)
合計	112	113	57	94	51	427 (100)

本研究では、金・秋葉(2018)と同様のデータを用いるが、放送局別の分析は行わず、原題を構成する語種(漢語、外来語、混成³⁾)や形態(句・文、副題付き、一単語、その他)に基づいて分類した上で、それぞれの短縮パターン(上記の①~⑤)とモーラ数を調査した。次節では調査結果を提示し、それに基づいて分析を行う。

4. 調査結果と分析

本節では、ドラマタイトルをその形態的特徴をもとに分類した場合の短縮形のモーラ数及び短縮パターンについて分析する。<表3>はタイトルの語種・形態別短縮パターン、<表4>は各モーラ数の生起頻度を示したものである。原題を構成する形態による分類の「その他」「一単語」は、用例数が非常に限られていたため、本稿では割愛する。

3) 本研究における混成とは句・文の形態ではないが、漢語・和語・外来語が混ざっているタイトルのことを指す。

<表3> タイトルの語種別短縮パターンの生起頻度(括弧の中は語種別内での割合)

短縮パターン	漢語	外来語	混成	句・文	副題付き
①	3(42.86)	22(59.46)	27(39.71)	107(58.47)	25(20.16)
②	1(14.29)	2(5.41)	2(2.94)	3(1.64)	-
③	1(14.29)	2(5.41)	15(22.06)	39(21.31)	88(70.97)
④	1(14.29)	-	15(22.06)	6(3.28)	-
⑤	1(14.29)	11(29.73)	9(13.24)	28(15.30)	11(8.87)
合計	7	37	68	183	124

<表4> タイトルの語種別モーラ数(括弧の中は語種別内での割合)

モーラ数	漢語	外来語	混成	句・文	副題付き
2モーラ	-	-	1(1.47)	-	3(2.42)
3モーラ	2(28.57)	3(8.11)	5(7.35)	11(6.01)	11(8.87)
4モーラ	3(42.86)	31(83.78)	38(55.88)	127(69.40)	46(37.10)
5モーラ	1(14.29)	-	7(10.29)	3(1.64)	7(5.65)
6モーラ	-	-	4(5.88)	10(5.46)	9(7.26)
7モーラ	-	2(5.41)	10(14.71)	12(6.56)	22(17.74)
8モーラ	1(14.29)	-	-	6(3.28)	5(4.03)
9モーラ	-	-	2(2.94)	2(1.09)	6(4.84)
10モーラ	-	-	1(1.47)	2(1.09)	4(3.23)
11モーラ	-	-	-	3(1.64)	6(4.84)
12モーラ	-	-	-	1(0.55)	1(0.81)
13モーラ	-	-	-	-	1(0.81)
15モーラ	-	-	-	-	1(0.81)
その他	-	1(2.70)	-	6(3.28)	2(1.61)

<表4>で確認できるように、4モーラの短縮形が顕著であるため、本稿では4モーラに焦点を当て、原題をしている語種及び形態別にどのように4モーラに収めているかについて述べる。

まず、漢語のみからなるタイトルについてであるが、全タイトル数が7つと非常に少なかった。短縮パターンは①が3例で②から⑤までがそれぞれ1例ずつであった。4モーラのものは3例のみであったが、これらはすべて(13)や(14)のように漢字の読み方の区切りに沿って切り取り短縮している。

(13) 隠捜(隠蔽捜査)

(14) 匿探(匿名探偵)

続いて、外来語のみの短縮形にみられる短縮パターンは、①の各要素の語頭2モーラずつ結合するものが最も多く22例観察され、全体の約60%を占めていた。これらの例は全て、(15)(16)のように2つの要素のうち、前半要素のはじめの2モーラ、後半要素のはじめの2モーラを切り取って結合している。これは、文(2017)で複合外来語からなる短縮語は2つの構成要素の前半2モーラずつを結合して4モーラとなることが多いと指摘されていることと一致する。

(15) ハニトラ(ハニー・トラップ)

(16) パーリポ(パーフェクト・リポート)

外来語のみ短縮形において2番目に多く見られた⑤のその他は11例観察され、全体の30%程度の割合を占めているが、11個の短縮形のうち9つが4モーラの短縮形であった。これらの例はパターン①の例と類似してはいるが、(17)や(18)のように促音や長音を脱落させて4モーラに短縮する例であった。

(17) ラキセブ(ラッキーセブン)

(18) セラゾン(セーラーズンビ)

続いて、混成タイトルの短縮形であるが、最も多くみられた短縮パターンは外来語と同様に①で27例観察された。これは全体の約40%程度にとどまっている。続いてタイトル数が多いのは③④のタイトルの一部を残し、残りを削除するパターンで、両者ともに15例観察された(約20%)。③④の短縮形で残される部分の多くが人名などの固有名詞であり、短縮形のモーラ数は幅広いが、(19)(20)のように4モーラに短縮された例も数例みられた。

(19) 山猫(怪盗山猫)

(20) 重版(重版出来!)

続いて多いのが⑤で9例観察された。前述の外来語の⑤と同様に①と類似した4モーラの例が6例みられたが、これらの例には、促音脱落に加え(21)のように「だっしゅつ」の促音

「だっ」を「だつ」へと清音化するものや(22)のように後半要素のみから4モーラを取り出すものなどがあった。

- (21) リアだつ(リアル脱出ゲーム)⁴⁾
 (22) 左江内(スーパーサラリーマン左江内氏)

句・文の形態のタイトルの短縮パターンでも①が圧倒的に多く107例観察され、これは全体の約60%の割合であった。続いて、③の前半のみを残し後半を削除する短縮パターンが39例と多く(約20%)、これには次の(23)(24)のように固有名詞を残しそれ以外を削除する例が多くみられた。このように固有名詞を含むタイトルの一部を残し、残りを削除する短縮形は先行研究では特に取り上げられていない。しかし、金・秋葉(2018)の韓国のドラマタイトルの短縮形にも多く見られたことから、タイトルの短縮に特有のパターンであると考えられる。

- (23) マルモ(マルモのおきて)
 (24) 花咲舞(花咲舞が黙ってない)

句・文タイトルで次に多く観察された⑤には、①と同様に4モーラに短縮しているが、(25)の促音脱落、(26)の促音の清音化を伴っているものや(27)のように形態自体を変えてしまう例もみられた。また、(28)の例に見られるように、英語に直したのちに前半2モーラと後半2モーラを切り取り結合した特殊な短縮形も観察された。

- (25) リチプア(リッチマン、プアウーマン)
 (26) 突結(突然ですが、明日結婚します)
 (27) 主泣き(主に泣いています)
 (28) プリプリ(監獄のお姫様→プリズン・プリンセス)

これまで見てきた漢語・外来語・混成の場合、構成要素が2つであり、①で4モーラに短縮する場合、前半要素の語頭2モーラと後半要素の語頭2モーラを結合する。一方、句や文の

4) 実際の例は「リア脱」であったが、日本語母語話者数名に確認したところ、全員「リアだつ」と読むと答えた。促音の清音化がみられる例に関しては全て日本語母語話者に確認をとり、意見が割れた例についてはモーラ数をその他にした。

場合は要素の数が3つ以上の場合が多い。その中でも、句の形態のタイトルの場合、「名詞の名詞(以下、NのN)」の形態のタイトルが大部分であり、この場合は(29)のように「の」を挟んだ前半要素の語頭から2モーラと後半要素の語頭から2モーラを切り取り結合している。「NのN」の形をとらないタイトルはより前半の部分から2モーラずつ切り取るとは限らず、(30)(31)のような例も多数みられる。

- (29) 過保カホ(過保護のカホコ)
- (30) 嫌探私の嫌いな探偵
- (31) 空広(空飛ぶ広報室)

文タイプのタイトルに関しても同様に、(32)のように前半の要素から2モーラずつ切り取るものもあれば、前半の要素と中間、さらには後半の要素から切り取る(33)や(34)のような例もみられた。

- (32) ボク運(ボク、運命の人です。)
- (33) 夏虹(夏の恋は虹色に輝く)
- (34) しごでき(ウチの夫は仕事ができない)

「NのN」の形態ではない句タイプもしくは文タイプの短縮形では、(30)から(34)のように構成要素が3つ以上存在し、どの構成要素から2モーラを切り取るかには様々なパターンが見られる。この場合、タイトルの中で意味的により有意な要素から2モーラずつ採択されるのではないかと考えられる⁵⁾。

最後に、副題付きタイトルの短縮パターンでは、②と④が1例もみられず、最も多いのが③で88例(約70%)、①25例(約20%)、⑤11例(約9%)と続いている。③では(35)(36)のように副題をすべて削除するものが多くみられた。

- (35) 同級生(同窓生～人は、三度、恋をする～)

5) 意味的に有意な要素の判断基準は一つとは限らない。タイトルによっては複数の短縮形が見られたものもある。ドラマの制作局が宣伝をかねて短縮形を使用し始める場合は、制作局の判断でどの構成要素から2モーラを切り取るか決定していると考えられる。一方、制作局とは関係なく、視聴者が短縮をしている場合も多く見られ、この場合はその短縮形を使用し始めた人の判断で2モーラを切り取る要素を決定している。本研究では短縮形一つ一つの頻度、出どころは考慮していないため、細かい考察は控える。

(36) あやぼん(あやぼん～走る国際空港)

また、パターン①はその大部分が主題の要素の語頭2モーラずつ結合して4モーラにする(37)や(38)のような例であるが、(39)のように副題を4モーラに短縮する例も数例みられた。

(37) マザゲー(マザー・ゲーム～彼女たちの階級～)

(38) 砂塔(砂の塔～知りすぎた隣人)

(39) 恋どん(デート～恋とはどんなものかしら～)

副題付きタイトルの場合、最も多い短縮パターンは①ではなく③であったが、モーラ数を見ると4モーラのタイトルは46例あり、全体の約40%程度を占めている。これは、③の中に4モーラの主題のみを残した(40)(41)のような例が多く含まれるからである。

(40) 昼顔(昼顔～平日午後3時の恋人たち～)

(41) 天誅(天誅～闇の仕置き人～)

以上、タイトルの形態別の短縮パターンと4モーラ短縮形の切り取り方について分析を行った。短縮パターンについては全体的に見ると各要素の語頭2モーラずつを結合する①の生起頻度が高いが、語種・形態別にみると、副題付きタイトルではタイトルの前半の一部を残す③が最も多く、ほかのタイプのタイトルと違いがみられる。また、4モーラ短縮形の切り取り方についても、内容語が2つの複合語や「NのN」タイプのタイトルでは2つの要素の語頭2モーラずつを切り取り結合しているが、それ以外の句や文タイプのタイトルではその切り取り方はさまざまであり、これにはドラマタイトルの意味の保持、連想しやすさが関係していると考えられる。また、4モーラに収束させるために、促音・長音の脱落、促音の清音化などのストラテジーを用いていることも明らかになった。次節ではこのストラテジーについてより詳しく考察する。

5. 考察

本節では、タイトルの語種や形態を問わず非常に多く観察された4モーラ短縮形に焦点を当て、4モーラに収束するためのストラテジーについて詳しく述べる。本研究のドラマタイ

トルの短縮形において、最も典型的なパターンは<表3>の生起頻度からもわかるように、①の前半要素の語頭2モーラ、後半要素の語頭2モーラを結合し、4モーラにするものである。しかしながら、⑤のその他にも、音韻や形態など何らかの変化を伴い4モーラに短縮される①と類似した例が多数観察された。そこで、これらの例にみられる4モーラに収束するためのストラテジーについて、長音・促音の脱落、促音の清音化、形態変化、境界の無視の4点を日比谷(1998)での記述と比較しつつ考察する。

まず、日比谷(1998)でも指摘されている長音と促音の脱落であるが、これは外来語のみタイトルの短縮形によくみられた。これらの例には、(17)や(18)のように前半の2モーラに促音や長音が含まれる場合、そして、(42)や(43)のように後半2モーラに含まれる場合がある。

- (17) ラキセブ(ラッキーセブン) (再掲)
- (18) セラゾン(セーラーズンビ) (再掲)
- (42) ワイヒロ(ワイルド・ヒーローズ)
- (43) ラスコブ(ラストコップ)

日比谷(1998:61)では、「はじめから2モーラをとると第2モーラが長音になる場合、その長音ではなく、その次のモーラを残す」とされている。本研究で(18)や(42)のように長音が脱落している例を見ると、日比谷(1998)で指摘されているように、切り取った2モーラの第2モーラが長音であり、その長音を脱落させ次のモーラを残している。また、日比谷(1998)では(44)(45)の2例を挙げ、長音を残す場合があることを指摘している。

- (44) ゲームセンター → ○ゲーセン *ゲムセン (日比谷1998: 61、一部修正)
- (45) シャープペンシル → ○シャープペン *シャペン (同上)

本研究のデータでも、(46)(47)のように脱落せずに4モーラに長音を含める例が観察された。そこで、4モーラで長音が脱落する例と残す例を集めてみたところ、長音が脱落する例は7例、残す例は15例であった⁶⁾。

- (46) リーハイ(リーガルハイ)
- (47) ファークラ(ファースト・クラス)

6) 「ルズゲー(ルーズヴェルト・ゲーム)」は長音の脱落と保持が両方含まれているため、ここには含めていない。

ただし、この長音の脱落と保持に関しては、母語話者間でも揺れが見られる。例えば、(46)「リーガルハイ」では、「リーハイ」という長音保持の例に加え、長音を脱落させた「リガハイ」という例も観察された。また、(47)「ファースト・クラス」についても「ファークラ」の他に「ファスクラ」という長音を落とした短縮形が見られた。日比谷(1998)では長音を残す例を例外的な抜いで説明していたが、本研究では長音を残す例も多数観察されたことに加え、長音を脱落させた例と保持している例を両方とも持つタイトルが複数観察されたため、長音の脱落に関しては、現在、その選択が母語話者間で揺れている可能性が示唆された。

促音の場合、日比谷(1998)では後部要素のはじめの2モーラに促音が含まれている場合、促音を脱落させるか促音を「つ」に変えると指摘している。本研究では、後部要素に限らず、前部要素に促音が含まれている場合でも、その促音はほぼ全て脱落していた。脱落しない場合は、日比谷(1998)の指摘と同様に、(48)のようにその促音を清音化している。ただし、この促音清音化は全体で4例しか観察されておらず、非常に限られている。促音が清音化される場合について、日比谷(1998)では短縮の結果、後部要素の第1モーラが無声音でなくなった場合、非促音化すると指摘されている。しかしながら、本研究では用例数が非常に限られており、長音を脱落させるか残すか、また、促音を脱落させるか清音化するかには音韻的な要因がかかわっていると考えられるため、今後それぞれの該当例を集め音韻的な考察を行いたい。

(48) ぜつれい (絶対零度~未解決事件特命捜査)

次に、先行研究では指摘されていない形態変化であるが、本研究では(27)と(49)の2例のみ観察された。(27)の場合、前半の2モーラを切り取ると「泣い」となるが、これを連用形に変形し「泣き」としている。(49)は前半の2モーラの「おっ」を促音を脱落させ「おさ」とするのではなく、「おじ」という異なる名詞に変形している。(27)が「おもない」という4モーラの短縮形にならない理由としては、「泣いている」の「ない」を切り取ると、テ形の活用部分が入らず、意味的にも形態的にもおさまりが悪いことが挙げられる。加えて、日本語では複合語をつくる際、「嘘泣き」「嬉し泣き」「寄せ書き」「ながら食べ」といったような連用形由来の複合語形成が多い。そのため、「泣いている」の「泣い」を「泣き」と変えた「主泣き」という短縮形が生成されたと考えられる。(49)は後半の2モーラに促音が含まれているため、形態変化が起きなければ、促音を落とした「三おさ」となるはずである。しかしながら、「三おさ」

とすると「三長(さんおさ)」を連想する可能性が生じるため、「おっさん」と同義である「おじさん」から2モーラをとり「三おじ」としたと考えられる。

- (27) 主泣き(主に泣いています) (再掲)
 (49) 三おじ(三匹のおっさん〜正義の味方、見参!!〜)

最後に、境界の無視であるが、本研究では漢字の読み方の境界を無視して2モーラを切り取る例が観察された。例えば、(50)の「家族(かぞく)」、(51)の「素直(すなお)」の漢字の読み方の区切りを無視して「かぞ」「すな」のように、それぞれ語頭の2モーラのみを残している例がある。また、(50)や(51)のような例は混成で1例、句・文で10例観察された。

- (50) かぞゲー(家族ゲーム)
 (51) すななれ(素直になれなくて)

これらの例は全て2モーラ+2モーラにするために漢字の読み方の境界を無視して短縮している。日比谷(1998)では漢字音が1モーラの場合短縮語形は4モーラにならず、(52)(53)のように3モーラに短縮されるが、1998年より少し前にできた流行語では(54)(55)に見られるように形態素の切れ目を無視して作られたものが多いと指摘している。

- (52) 家庭 + 裁判所 → かさい (日比谷1998: 63)
 (53) 武蔵 + 小杉 → むさこ (同上、一部修正)
 (54) 土壇場 + キャンセル → どたキャン (同上、一部修正)
 (55) 歩行者 + 天国 → ほこてん (同上、一部修正)

しかし本研究では、むしろ、(56)(57)のように漢字の区切り通りに3モーラに短縮した例は漢語に2例、句・文に2例と非常に少ない。このことから、時代の流れとともに、形態素の区切りよりも4モーラに収束させることを優先させた短縮戦略に変わってきている可能性が考えられる。

- (56) 貴探(貴族探偵)
 (57) 最離(最高の離婚)

以上、4モーラ収束ストラテジー4点について事例を挙げ考察した。ドラマタイトルの短縮形生成における4モーラの高志向性や短縮ストラテジーは先行研究と一致する点も少なくないが、促音の脱落の仕方や長音の残し方、形態自体の変化、境界の無視など、細かい点においては違いがみられた。

6. おわりに

本研究ではドラマタイトルの短縮形について、タイトルの語種及び形態的特徴をもとに分類した上でその短縮パターンとモーラ数を分析した。また、最も典型的なパターン①以外の4モーラ短縮形について、その収束ストラテジーを考察した。その結果、4モーラ短縮の志向性は特に外来語及び句・文タイプのタイトルにおいて高いことが明らかになった。2モーラ+2モーラの4モーラ短縮形の中には、促音を含み4モーラに収束しにくい場合においても、促音を脱落させたり清音化したりして4モーラに短縮した例が多く観察された。長音については、先行研究では切り取る2モーラの中に長音が含まれている場合、長音を落とし、その次のモーラを残すとされているが、本研究では長音を落として次のモーラを残した例よりも、長音を残して2モーラを形成した例の方が多く観察された。加えて、形態を変えたり、漢字の読みの境界を無視したりすることによって4モーラに短縮するストラテジーもみられ、4モーラへの高志向性がうかがえた。

【参考文献】

- 伊東美津(2011)「混成語について」『教養研究』17(3)、九州国際大学、pp.1-15
 金廷珉・秋葉多佳子(2018)「ドラマタイトルの短縮語に関する韓日対照研究」『日本語学研究』56、韓国日本語学会、pp.3-17
 窪齒晴夫(2008)『ネーミングの言語学』開拓社
 窪齒晴夫(2010)「語形成と音韻構造:短縮語形成のメカニズム」『国立国語研究所プロジェクトレビュー』3、国立国語研究所、pp.17-34
 柴崎秀子・玉岡賀津雄・母育新(2007)「自然習得の恩恵—日本語の短縮語復元課題における中国と日本の学習環境の比較—」『レキシコンフォーラム』3、ひつじ書房、pp.335-350
 玉岡賀津雄・トクソズレバント(2010)「新しく作られた短縮語使用に関する世代間比較」『ことばの科学』23、名古屋大学言語文化研究会、pp.85-99
 日比谷潤子(1998)「複合語短縮」『世界の日本語教育』8、国際交流基金、pp.47-65

文昶允(2017)「短縮語の形成方略に観察される世代差について」『日本語の研究』13(3)、日本語学会、pp.18-34

논문투고일 : 2018년 09월 18일
심사개시일 : 2018년 10월 17일
1차 수정일 : 2018년 11월 10일
2차 수정일 : 2018년 11월 15일
게재확정일 : 2018년 11월 19일

 <要旨>

4モーラ短縮形に関する形態論的研究

- ドラマのタイトルを中心に -

秋葉多佳子・金廷珉

本研究ではドラマタイトルの短縮形について、タイトルの語種及び形態的特徴をもとに分類した上でその短縮パターンとモーラ数を分析した。また、最も典型的な短縮パターン①「各要素の語頭2モーラずつ結合」以外の4モーラ短縮形についてその収束ストラテジーを考察した。本研究で明らかになった点を以下にまとめる。

- (i) ドラマタイトルの短縮形においても短縮パターン①「各要素の語頭2モーラずつ結合」の生起頻度が最も高い。
- (ii) タイトルの語種・形態的特徴別にみると、外来語及び文・句タイプのタイトルで特に4モーラの短縮形の生起頻度が最も高い。
- (iii) 切り取る語頭の2モーラに促音が含まれている場合、促音を脱落させたり、清音化したりして4モーラに短縮する。
- (iv) 切り取る語頭の2モーラに長音が含まれている場合、長音を脱落させるよりもその長音を残し4モーラに短縮させることのほうが多い。
- (v) 用例数は少ないが、タイトルの形態自体を変えたり、漢字の読みの境界を無視したりして4モーラに短縮する場合もある。

A morphological study on the 4 mora abbreviation

- Research on the Japanese drama titles -

Akiha, Takako · Kim, Jung-Min

This paper aims to analyze the abbreviation patterns of drama titles in Japanese from a morphological perspective. For this purpose, we first classified the titles into three word types and four morphological features; then, we analyzed the number of shortened-form moras and their frequencies of abbreviation patterns according to the five types shown in Kim and Akiha (2018). Also, we examined the strategies to abbreviate a title to four moras except for the most typical abbreviation pattern 1, in which the four moras are taken from the initial two moras of two words. The findings of this study are summarized as follows:

- (i) In the abbreviation of drama titles, a four-mora acronym combining the initial two moras in the discrete segments of a title turned out to be the most common pattern.
- (ii) Four-mora abbreviations occur with high frequency in titles containing loan words and titles in the form of a phrase or sentence.
- (iii) Titles includescontaining a double consonant in the initial two moras tend to be abbreviated to four moras without the double consonant by dropping it or changing it into a single consonant.
- (iv) Titles includescontaining a long vowel in the initial two moras tend to be abbreviated to four moras without dropping the long vowel.
- (v) A few titles were abbreviated to four moras with a morphological change or four moras cut out regardless of the delimiter of the pronunciation of Chinese characters.